

環境経済論 2009：国際経済学科（泉留維） 第一回

○授業計画

<前期>

- 4月10日：イントロダクション（授業計画および評価についての説明等）
- 4月17日：環境経済学の枠組：経済学は自然をどう捉えてきたのか（テ3章）
- 4月24日：環境問題の原点としての公害（1）足尾銅山煙害・鉱毒事件（テ1章）
- 5月8日：環境問題の原点としての公害（2）水俣病と産業型公害（テ1章）
- 5月15日：環境問題の原点としての公害（3）大気汚染と都市・生活型公害（テ1章）
- 5月22日：環境問題の原点としての公害（4）食品公害：カネミ油症と森永ヒ素ミルク事件（テ1章）
- 5月29日：エネルギーと環境（1）再生可能エネルギーについて（テ7章）
- 6月5日：エネルギーと環境（2）原子力発電所問題（テ7,8章）
- 6月12日：ゴミの経済学（1）ゴミとは何か：物質収支とバズ（テ8章）
- 6月19日：ゴミの経済学（2）一般廃棄物と3R（テ8章）
- 6月26日：黒門祭（休講）
- 7月3日：ゴミの経済学（3）産業廃棄物と不法投棄問題（テ8章）
- 7月10日：ゴミの経済学（4）進行する土壌汚染と「越境する廃棄物」（テ8章）

<後期>

- 9月25日：前期授業内容の復習（小テスト扱い）
- 10月2日：海と生命の循環
- 10月9日：淡水の現状と問題
- 10月16日：自然開発と公共事業（テ6章）
- 10月23日：環境の経済的評価（1）貨幣評価（テ5章）
- 10月30日：鳳祭（休講）
- 11月6日：環境の経済的評価（2）非貨幣評価（テ5章）
- 11月13日：環境政策と経済的手段（1）環境税（テ4章）
- 11月20日：環境政策と経済的手段（2）排出量取引（テ4章）
- 12月27日：環境政策と経済的手段（3）ロードプライシングおよびデポジット制度など（テ4章）
- 12月4日：経済活動の環境への影響（1）企業の社会的責任と環境経営（テ10章）
- 12月11日：経済活動の環境への影響（2）消費者および需要サイドからの対応（テ10章）
- 12月18日：経済活動の環境への影響（3）金融機関の環境対応（テ10章）
- 1月8日：後期授業内容の確認と質疑応答

テ = テキスト（『テキストブック 環境と公害：経済至上主義から命を育む経済へ』日本評論社）

○成績評価の方法

学年末試験（一切持ち込み不可）、夏休みの自主レポートならびに授業内に行う小テスト（前後期計 6 回程度）で総合評価する。小テストを 2 回以上受験していない学生には、学年末試験の受験資格を与えない（つまり受けても 50 点未満）ので注意すること。なお、小テストの実施日は原則、告知しない。

○昨年度の成績評価結果

登録者数：68 人

定期試験受験者：57 人（A：9 人、B：32 人、C：8 人、不合格：8 人）

平均点：63.9 点

名目合格率(合格者/履修登録者数) 72.1%

実質合格率(合格者/定期試験受験者) 86.0%

○教科書

泉留維・室田武・三俣学・和田喜彦『テキストブック 環境と公害：経済至上主義から命を育む経済へ』日本評論社（定価 2600 円）

毎回、講義ノートを配布し、必要に応じてビデオなどを用意する。

○参考書

植田和弘『環境経済学』岩波書店（1996 年）

細田衛士『グッズとバズズの経済学』東洋経済新報社（1999 年）

室田武『物質循環のエコロジー』晃洋書房（2001 年）

○受講前提条件・関連科目

新聞・雑誌・テレビ等の環境問題についての報道に注目すること。授業中の私語は厳禁。私語がひどい学生は退席を命じることもある。

☆講義ノートに関しては、すでに終了している講義分について専修大学・RENANDI 統合 eラーニングシステムに逐次アップする（5 月中旬頃からダウンロード可能予定）。

<https://renandi.ss.senshu-u.ac.jp/renandi/session.do>

→ログインするには、情報機器室のパソコンにログインするものと同じ、ID とパスワードを打ち込む

わが国の社会経済とくらしの変遷

	世の中の動き	日常生活の変化	
高度経済成長期…物の豊かさの追求へ	<ul style="list-style-type: none"> ● 高度経済成長へ (S30) イタイイタイ病(神通川流域)発生 (S31) 経済白書「もはや戦後ではない」 (S31) 水俣病発生 (S35) 国民所得倍増計画スタート ● 公害問題の提起 (S35) 四日市公害深刻化(ぜんそく等) (S37) 1週間のスモッグ発生(東京) (S37) レイチェル・カーソン「沈黙の春」 (S37) 全国総合開発計画 (S39) 東京オリンピック開催 (S40) 第二水俣病発生(阿賀野川流域) (S42) 公害対策基本法の成立 (S42) 新潟水俣病訴訟、四日市公害訴訟 (S44) 人類初の月面着陸 (S45) 大阪万博博覧会開催 (S45) 光化学スモッグ被害東京で顕発、ばいじん、SOx大気汚染発生 (S45) 第64回国会(公害国会)で14の公害関連法案可決 (S46) 環境庁発足 (S47) ローマクラブ「成長の限界」 (S47) 国連人間環境会議が人間環境宣言、国連環境計画設立 (S47) 日本列島改造論発表 	<p>神武景気 S29-S32</p> <p>岩戸景気 S33-S36 オリンピック景気 S37-S39</p> <p>いざなぎ景気 S41~45</p> <p>列島改造景気 S46-S48</p>	<ul style="list-style-type: none"> (S28) テレビ放送開始 (S28) インスタント食品の登場 【三種の神器】白黒テレビ、電気洗濯機、電気冷蔵庫 (S37) 首都高速開通。「マイカー元年」 (S37) 農業人口全労働力の3割を割る (S39) ティッシュペーパー発売 (S39) 海外旅行の自由化 (S39) 東海道新幹線開通 (S40) 名神高速道路全線開業 (S41) 日本の人口が1億人を突破 (S42) 「核家族」という言葉の流行 (S44) 冷凍冷蔵庫(2ドア)の登場 (S44) 東名高速道路全線開通、東京-西宮間全通 (S45) 自動販売機100万台突破
	<ul style="list-style-type: none"> ● 省エネ問題の提起、都市圏での環境問題の顕在化 (S48) 第4次中東戦争-第1次石油危機 (S49) フロンによるオゾン層破壊の可能性指摘 (S53) 西淀川都市型大気複合汚染訴訟 (S54) 第2次石油危機発生、省エネルギー法制定 (S55) 日本の自動車生産台数世界一に (S55) 米初のスペースシャトル打ち上げ 	<ul style="list-style-type: none"> (S49) コンビニエンスストア第1号店開店 (S50) 山陽新幹線(岡山-博多)開業 (S54) 「省エネ・ルック」の流行 (S57) ペットボトル登場 (S57) 東北、上越新幹線開通 (S58) 「ワンルームマンション」という言葉の流行 (S59) 平均寿命が男女共世界一に 	
安定成長期…物の豊かさから利便性の追求へ	<ul style="list-style-type: none"> (S60) 男女雇用機会均等法 (S60) つくば科学万博開催 ● 地球環境問題への意識の高まり (S60) オゾン層保護のためのウィーン条約採択 (S61) チェルノブイリ原発事故発生 (S62) モントリオール議定書採択 (S63) 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)設立 (H元) ハルティーズ号油流出事故 (H2) 廃棄物最終処分場の残余年数(産業:7.6年、一般:1.7年) ● 持続可能な発展に向けた政策の進展 (H4) 地球サミット開催 (H4) ハーゼル条約発効 (H4) 生物多様性条約採択 (H5) 環境基本法制定 (H6) WTO発足 (H8) ISO14001制定・発行 (H9) 京都議定書を採択(COP3) (H9) ナホトカ号重油流出事件 (H10) 地球温暖化対策推進法制定 (H10) GNP世界2位に (H12) 循環型社会形成推進基本法制定、第二次環境基本計画閣議決定 世界人口60億人突破 (H14) 京都議定書を批准 	<p>バブル景気 S61-H3</p>	<ul style="list-style-type: none"> (S61) 「レンズ付フィルム」の登場 (S62) 携帯電話サービスの開始 (S62) 「DINKS」という言葉の流行 (S63) 青函トンネル開通・瀬戸大橋完成 (H元) 消費税(3%)導入 (H元) 日本でインターネット運用開始 (H元) エコマークの登場 (H2) 海外旅行者数、年間1,000万人を突破 (H3) 牛肉・オレンジ輸入自由化 (H4) 週休2日制度の定着、学校週5日制スタート (H5) 冷夏による農作物の大凶作 (H5) コンビニが4万店を越す (H6) 猛暑による水不足 (H6) 住宅用太陽光発電システム補助事業が開始 (H7) 一人暮らし世帯が全世帯の25%に (H9) 消費税率5%に引上げ (H12) パソコンを利用する世帯が50%を超える (H13) インターネットを利用する世帯が50%を超える (H14) 携帯電話利用者が国民の50%を超える

資料：環境省

環境問題は、その国の豊かさ（経済規模・人口・個人の生活水準・平均余命など）の進捗と相まって、新しい性質をもった環境問題（ゴミ問題・自動車問題・温暖化問題など）が発生するが・・・しかしながら「公害」問題はまだ決して過去の問題ではない。